

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道17号 浦佐バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点 自：新潟県南魚沼市市野江甲 至：新潟県魚沼市虫野				延長 6.6 km
事業概要 一般国道17号浦佐バイパスは、冠水・濃霧区間の回避による災害に強い道路ネットワークの形成、冬期除雪障害の解消、地域振興の支援などを目的とした、延長約6.6kmのバイパス事業である。				
S63年度事業化	H3年度都市計画決定 (H一年度変更)	H5年度用地着手	H9年度工事着手	
全体事業費 約210億円		事業進捗率 61%		供用済延長 2.2 km
地域の防災面の課題 ・浦佐バイパス現道区間には、JR上越線と魚野川に挟まれ堆雪幅を確保することができない幅員狭小区間が存在する。そのため、道路除雪により側方に寄せられた雪は路肩及び車線の一部に堆雪し、運搬排雪による通行障害が生じている。 ・排雪作業はH15年～H24年の平均で年間82時間実施され、冬期間の道路交通に大きな影響を与えている。 ・魚野川が洪水により氾濫するとJR上越線と並行する国道17号区間は、道路が冠水し通行不能となることや、魚野川沿いの現道区間は、春先になると濃霧による交通の阻害などがあることから魚沼市、南魚沼市から要望がだされているなど地域の喫緊の課題となっている。				
課題を踏まえた対策・事業内容 ・現道区間の魚野川氾濫での道路冠水による通行止め、濃霧の発生、幅員狭小区間の冬期除排雪作業による通行障害を別線での浦佐バイパスの整備により、課題箇所を回避する。				
事業の効果等 ①走行時間の短縮等（228億円（残事業＝201億円）） ②除雪障害の解消 ・路肩及び車線の一部に堆雪した雪の運搬排雪に伴う通行障害の解消 ③大規模災害の被害回避 ・大雨等による道路冠水や濃霧等による交通阻害の影響を回避 ④第三次救急医療施設へのアクセス性の向上 ・魚沼市役所～魚沼基幹病院へのアクセス向上			費用 (残事業) / (事業全体) 83 / 273億円 〔 事業費：55 / 228億円 維持管理費：28 / 46億円 〕	
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 魚沼市や南魚沼市などで構成される一般国道17号浦佐バイパス整備促進期成同盟会から整備促進要望を受けている。 知事の意見： 地域住民の安全・安心の確保や地域の振興のため、事業を継続する必要がある。 ただし、過去に発生した災害を踏まえて事業の優先順位を考える必要がある。 また今後は、国土軸の構築が重要であることから、都市間ネットワークの形成も考慮して優先順位を判断すべきである。 なお、都市内の交通混雑の緩和については、TDMの活用の可能性など、総合的な観点からも考えるべきである。				

事業評価監視委員会の意見

対応方針については、北陸地方整備局原案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等

- ・浦佐バイパス隣接地に地域医療の高度化に向けた第三次救急医療施設「魚沼基幹病院」のH27年開院が予定。
- ・また、魚沼市では企業立地重点促進区域として、産業集積の形成と活性化を目指し水の郷工業団地を造成。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成9年度に工事着手し、事業進捗率61%、そのうち用地進捗率約79%となっている。

残事業の内容（南魚沼市市野江甲～浦佐間（L=1.5km）の工事、魚沼市十日町～魚沼市虫野間（L=2.9km）の用地買収および工事）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

魚沼市十日町地先の約1.8kmについては、平成26年度開通に向け事業を推進するとともに、引き続き残りの事業区間についても事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

過年度の再評価時に魚野川橋～JR跨線橋区間について片側歩道に変更、南魚沼市茗荷沢から魚沼市十日町間の盛土部においては本線歩道から側道脇におろし側道兼用にすることでコスト縮減に努めている。また、他事業の発生土を盛土材として使用するなど、今後もコスト縮減に努めていく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性に変化なく、防災面の効果が見込まれるため。

事業概要図



- ※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。
- ※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。